



何よりも “いのちを守る” 区政に変えます。

日本共産党 石沢のりゆき

今年7月、2歳の娘のコロナ感染が判明した後、妊娠中の妻が発熱しました。陽性検査を受けようと、妊娠ホットラインや都の発熱センターなどにかけた電話が全く繋がらず、丸3日相談すらもできませんでした。その間、「妻の症状が激変でもしたら」という不安と怖さを実感しました。

文京区で新規感染者がピークに達した今年の夏、区保健所は、都からの応援や各部からの応援でも対応困難となり、自宅待機者の健康観察を民間委託する事態となりました。以前には2箇所あった保健所を1箇所に削減したことが大きな要因です。

新たな感染症対策のためにも、保健所の強化と2箇所体制への復活が大きな課題です。何よりも“いのちを守る”区政に変えたいと決意しています。

“誰一人取り残さない”

若者が2カ月ごとに取り組む「フードバンク」活動を支援してきました。「1日2食に減らした」という学生や「2つのバイトを掛け持ち」するお母さんなどが次々と食料を受け取りにきます。

広がる格差と貧困の深刻な実態を目の当たりにし、「誰一人取り残さない」政治が必要だと痛感しました。

“都立病院を守れ”

「駒込病院がなくなるなんて本当に困る」と地域の人から声をかけられ、「守る会」のみなさんたちと、都立病院の「独立行政法人化中止」を求める署名に取り組みました（集約は累計40万筆超）。

「独法化」は今年7月、多くの反対世論を無視して強行されましたが、今までの医療の機能をしっかり守り、充実させることを求めています。

PROFILE

- 1986年横浜市生まれ。祖父は元横浜市議／小学生時代に千葉県山武市に転居／高校2年の時、長崎での原水爆禁止世界大会に参加。これを契機に平和運動に関わる／東洋大学経済学部卒業／会社員を経験後、13年から党文京地区委員会に勤務。
- 入党の決意：高校3年の時、あの戦前の暗黒時代に命がけで侵略戦争反対と国民主権の旗を掲げ続けた日本共産党の不屈性と勇気を知り、深い感銘を受け、入党を決意する。
- 記者時代：東洋大学卒業後、繊維・ファッション業界専門紙の記者に。取材を重ねる中で、世界に負けない独自の技術を高め、付加価値の高い製品を生み出す中小企業こそ「日本経済の屋台骨」だと実感する。



▲上海での取材時

「願い」区政に届け、実現へ

— 党区議団と私の取り組みが実を結ぶ —

小中全校視察で耐震補強・エアコン設置・トイレの洋式化 普通教室の改修の実現

●党文京区議団は、「願い」を聞き取り、直ぐに現場を調査⇒議会で取り上げ論戦⇒実現まで何度も区に迫る—この粘り強い議会活動で区民のみなさんの「願い」を実現させてきました。

私も2013年から党区議団と一緒に、調査や区交渉などに取り組んできました。



改修されてピカピカになった廊下

●1995年の阪神大震災直後、全小中校を調査し、区内施設の「耐震診断」と「耐震補強工事」を提起し、学校46棟の耐震工事を実現。また、地球温暖化で「教室がサウナ状態」という悲痛な声を受け、「学校冷房化」を提起し、普通教室は03年度からスタート。17年度までに「特別教室」や「体育館」のエアコン設置も実現させました。

●「和式」トイレの設置校を調査し、学校改修とトイレの「洋式化」を20年に実現。17年、老朽化した理科室などの「特別教室」33施設を調査し改修を求めましたが、区は、「しぶり」続け、工事完了は1室のみで、201教室は手つかず状態のままです。区議会の度に、この問題を指摘し続け、とうとう、23年からあと5年で改修すると、区当局に表明させました。

都バス車庫跡地に認可保育所と育成室を実現

党区議団は議会ごとにとりあげ、提案（議会質問15回）。区長は「福祉活用は計画していない」と冷たい姿勢に終始。茗荷谷駅横の都バス車庫跡地（現在、中央大学キャンパス内）の「福祉活用」の請願に対して、党区議団は他会派と協力。結果、「福祉活用を」の請願が2回採択され（自民と公明は反対）、これが決め手となり、定員100人の認可園と定員40人の育成室がついに実現へ。来年（23年）4月オープンします。



大塚都バス車庫跡地

コロナ対策の強化

子育て給付金3万円（総額12億円）や中小企業事業継続補助30万円（総額14億円）／区独自のPCR検査所の確保／コールセンター 25回線を4倍の100回線に／地域活動センターなど9カ所でワクチン集団接種／子どもたちの五輪への集団観戦を中止させました。



福祉対策

- ▶子どもの「国保料の均等割り」を「入学前」児童は半額にさせました。
- ▶高齢者のインフルエンザ予防接種を無料化、公衆浴場のガス代補助を実現。

あなたの願い、実現に全力。

区政に挑戦！

石沢

のりゆき 36歳

子育て・若者・
くらし相談室長



9条生かした平和外交で
戦争と核のない世界を

日本共産党

『文京新聞』2022年12月号 文京新聞社発行（島元雅夫 文京区千両1-29-12）
日本共産党地区委員会は石沢のりゆきの活動報告を次のように発表しました。

石沢のりゆきの提案

区の貯め込み金 632億円の一部で **実現できます!**

保健所を2カ所体制に戻せ

3927人のコロナの新規陽性者がでたピーク時(22年7/30~8/7)には、自宅待機者の健康観察を民間会社へ委託するなど、保健所体制のもろさがはつきりしました(保健所費が23区中22位の低さです)。新たな感染症対策のため、保健所の人員増と2カ所から1カ所に減らされた保健所(本郷保健所)の復活が喫緊の課題です。

「学校給食費」の完全無償化を

学校給食費は、保護者の教育費の4割を占め、大きな負担です。葛飾区では、来年度から23区初の「給食費完全無償化」をスタートさせます(世田谷区や杉並区も検討中)。文京区でも7億円あれば実現できます。

理科室などの「特別教室」の改修を早く

シビックセンターの改修には、既に128億円を投入、「年あたり50億円」かけて進めているのに、201室の「特別教室」の改修は後回しです(1室のみ完了)。子どもの教育環境改善こそ先行させるべきです。

「75歳以上の高齢者の窓口負担」ゼロへ

10月から75歳以上(後期高齢者)の医療費は、1割から2割負担へと2倍になりました。75歳以上の住民税非課税者の窓口負担はゼロへ(美濃部都政では70歳以上は無料)。これは7.5億円で実現可能です。

現区長の15年「**しぶる けずる かくす**」で貯め込んだ**632億円** 昨年度だけでも64億円を積み増し!

●切実な願いを「しぶる」

特養ホーム建設を「しぶり」、区内定員は633人。待機者は370人(22年10月現在)に達し、シルバーピア建設もゼロです。小中学校の理科室や図工室などの「特別教室」201室で老朽化が進行。改修も「しぶり」、完了したのはわずか1室のみです。

区立の保育園建設もゼロ。待機児童は326人(22年4月)。区内の認可園の70%以上が株式会社立民設園です。定員40人の育成室は、40~47人が25室、50人以上が16室という超過密状態のままです。

●区民サービスを「けずる」

現区長のもと、学童保育や図書館の民間委託や、交流館の廃止、学童保育の保育料の値上げなど、「けずった」事業は20を超えました。

●余ったお金を「かくす」をくりかえす

「区財政は大変」と言い続ける当局。しかし、税収入は増え、ずっと黒字財政です。そのうえ、必要な区民施策までも削減し、余ったお金の一部(年間平均11億円)を、区は「かくし」、積立金に回し続けたのが、「632億円もの多額の貯め込み金」です。



23区で最も高い庁舎

地元からの声、全力で実現します。

老朽化した「勤労福祉会館」&「本駒込図書館」の改修急いで!「勤福」ではペンキが剥げ、壁やドアを職員自ら応急修理していたと……。

千石4丁目の「旧西原会館」、隣地の児童遊園と一体に地元の集会所として早くつくって。

千石1丁目の「大原地域活動センター」にピアノ設置を。「カラオケ設備を」「地域でもっと使える施設に」などの要望が寄せられています。

「9中・10中」、「林町小・駕籠町小」の特別教室の改修を急いで。近隣からは10中の音楽室を防音化にしての声か。

「不忍通りの歩道」を歩きやすくして!

狭い歩道は歩きづらく、足の不自由な方や乳母車を使う方から、「歩きやすくして」との声が出ています。根津小から根津交番までの無電柱化工事がスタート(25年3月完了)しています。不忍通りの電柱移設工事も「早く始めて」の声が寄せられています。

最後に残された千石・白山地域にも、コミュニティバス「Bーぐる」を早く走らせて。

「千駄木小」の改築検討を急いでやって(当面、普通教室・廊下・昇降口の改修を)。



近所の公園で娘と遊ぶ▶

石沢さんはこんな人



彼の原点は「平和」 YSさん(白山3丁目在住)

高校の時に、「原水禁大会」に参加して以降、「平和集会」や「憲法集会」には、プラカードを持ち、私たちと腕を組んで一緒に歩く彼の姿がいつもありました。「憲法9条と平和外交で、戦争も核もない世界にしたい」と熱く語る石沢さんは、日本と世界をズバリと話せる頼もしい青年です。

ロシアの侵略以降、「大軍拡」や「改憲」の危険な動きが加速され、私たちは不安の只中にいます。

こんな時だからこそ、物騒な「核戦争肯定論」をくい止める青年政治家を誕生させたいと、強く思います。



原水禁「国民大行進」(21年)

若者たちの相談相手 AKさん(本駒込2丁目在住)

石沢さんが相談されたA君(26歳)の仕事は、自転車で1時間の弁当屋さん。早朝から深夜まで1日12時間以上も働き、疲れすぎて歯も磨かずに寝る毎日で歯はボロボロに。A君は「非正規のままでは将来結婚もできないんじゃないか。まともな生活がしたい」と不安な胸の内を語ります。

貧困率が先進国の中で3番目に高い日本は、A君のような非正規労働が全労働者の約4割にも。

「ブラック企業を無くして、普通の働き方で青年が希望を持てる社会にしたい」と話す石沢さんは、若者たちのやさしい相談相手なのです。



フードバンク支援(22年)

元都議会議員
小竹ひろ子



石沢さんは「家賃が高くて住み続けられない」という高齢者から相談を受けて、一緒に都営住宅の申し込みの手続きを手伝うなど、頼もしい青年です。区民の立場に立てる即戦力の政治家です。

元区議会議員
高畑久子



「勤労福祉会館の和室の椅子が足りない」と利用者から電話。すぐに現場を見て、椅子を増やさせるなど、石沢さんはいつもみんなの牽引役。彼の持ち味は「とことん追求する」です。今後の活躍に期待します。

都議会議員
福手ゆう子



石沢さんは、コロナ禍でバイトが減って食べるにも困る学生や、低収入で将来が不安な若者に寄り添い、親身になっての相談や支援をしてきました。格差と貧困が広がる中、この力こそ区政にとって必要です。

区議会議員
こうだ久美子



石沢さんは、記者として外国取材も経験し、「反貧困」などの運動を支えてきた正義の人です。私の後継者として抜群です。みなさんのお力で必ず区政に押し上げてください。